

第3回 インフラマネジメントテクノロジーコンテスト

経済調査会「建設マネジメント技術賞」受賞

多くの人へインフラのことを伝えたい 擬人化を使った広報についてと、 おまけの学校紹介

木更津工業高等専門学校 環境都市工学科4年

すずき いっこう
鈴木 孝厚

1. はじめに

この度、インフラマネジメントテクノロジーコンテスト（以下、「インフラテクコン」という）2022へ参加させていただき、プラチナ賞を賜りました。木更津工業高等専門学校・チーム Kisara's です。

このチームは当時、環境都市工学科の3年生のみで構成されており、先輩や先生がいないなかでも「自分たちだからこそできる提案を！」と思い、発足しました。

過去2回のインフラテクコンでは、木更津高専は素晴らしい結果を残しており、先輩方の偉大さを痛感するとともに、自分たちも負けられないという思いで、全力で臨んだつもりです。

本稿では、我々の提案「インフラの擬人化」とともに木更津高専での生活や学校の紹介もさせていただきます。

2. 企画紹介（インフラの擬人化）

(1) 企画提案の経緯

近年、異常気象やそれに伴う災害などにより、インフラ需要はますます高まっています。異常気象にかかわらずとも、我々の生活を支えるためにインフラは必要不可欠です。

しかし、多くの人にとってインフラへの理解は

深いとは言えず、その役割から得られる恩恵を理解している人も多いとは言えません。

また、建設業界を中心に人材不足が深刻であり、就職先のイメージとしてもさらなる魅力の向上が望まれる状況だと思います。

そこで我々 Kisara's のメンバーは、インフラのなかでも身近な構造物で、なくてはならないものとして土木構造物に重きを置き、その広報を行うことを考えました。

このため、若年層を中心にインフラの活躍や役割、また、その面白さを知ってもらうことを目標に「インフラの擬人化」を行い、インフラへの理解を深め、イメージアップを促そうと考えたのです。

(2) インフラの擬人化とは？

「インフラの擬人化」の具体的なモデルは、“インフラとしての構造物”です。これは“橋”や“ダム”といった構造物の役割を伝え、また、地域ごとの土木構造物について詳しく知ってもらうことが目的です。

これにより、身近な土木構造物が果たす役割や魅力を伝えやすくなるを考えました。

そして、擬人化の際にはキャラクターとして魅力的なのはもちろん、モデルとなった構造物ならではの外観・装飾や、ストーリーを持つようなデザインにし、視覚的にも土木構造物の魅力が伝わるようにしました（図-1）。



図-1 擬人化キャラクター案（橋の擬人化）

(3) インフラの擬人化によって得られる効果

擬人化による若年層向けのコンテンツは数多く存在しており、そのなかでも人気を博した結果、擬人化されたモデル自体への関心が高まったケースは多く、今回の提案もこれを狙っています。

若年層を対象とする呼びかけによって、将来建設業界への関心を持ってくれる人を増やす効果も期待できます。

擬人化によって紙や映像媒体で取り上げやすくなり、メディアミックスとして、アニメ化、ゲーム化できる可能性も秘めています。

(4) インフラの擬人化の課題

この提案には、誰がデザインを手掛けるか、どこで広報するかという課題が挙げられます。

まず、誰がデザインを手掛けるかですが、モデルとなる構造物の特徴をよく理解し、若年層向けのカルチャーにも精通した人が適していると思います。これは、現在進行形で土木について学ぶ若年層として、高専生や大学生が適していると考えます。モデルに合わせたデザインを手掛けてもらうことで、学生自身の学びにもなり、学生同士のコミュニティで話題の拡散も狙えると考えられます。

次に、どこで広報するかですが、これは例とし

て、モデルとなった構造物がある自治体や国土交通省のホームページが挙げられます。若年層をターゲットとしている本提案では、それらのホームページへのスムーズな誘導が必要です。

そこで、擬人化したキャラクターたちを駅といった人が集まりやすい場所で、ポスター掲載などを使って宣伝し、前記のホームページへのアクセスを促します。これによって、擬人化されたインフラのことを、さらには、ホームページ内の国や自治体としての活動や取り組みについても知ってもらえるように、それらの記録や情報を受け取りやすくする効果も期待できます。

(5) まとめ

今回の提案のまとめとして、魅力的なキャラクターやそのストーリーから、インフラについて興味を持ってもらうことで、インフラの役割や重要性を分かりやすく知ってもらい、そのイメージを良いものにします。また、ここから国や自治体としての活動についても知ってもらえるよう、広報に利用することで発信された情報を受け取りやすくすることができます。

3. おまけの学校紹介【木更津高専のこと】

(1) 木更津高専とは

木更津高専は千葉県木更津市にある、2023年に創設56周年を迎える工業高等専門学校です（創設は昭和42年）。小高い丘の上に建っており、高い建物からは木更津のシンボルでもあるアクアラインや、天気の良いときは富士山が見えたりもします。

現在、学校は、機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、情報工学科、環境都市工学科の5学科で構成されています。

敷地内には、各学科の先生方の教員室や一部の研究室がある第一～第三研究棟、各学科の学生が試験や実習を行うための実験実習棟（またの名を工場棟）、普段学生が座学を受ける総合教育棟、これら学生や先生のための設備があります。ま



写真－1 木更津高専（正面）

た、レポート作成の際にお世話になることの多い図書館や、約400人に及ぶ寮生の生活の場である寮（女子寮：なのはな寮，男子寮：雄峰寮の2棟）など、充実した設備が整っています（写真－1）。

（2）木更津高専の学生生活

木更津高専の学生は、早い段階で専門性の高い授業を受けることにより、5年間で技術者に必要となる知識を修めます。1年生から学科ごとに専門の基礎を学び、学年を追うごとに専門的な内容が増え、4年生の後半から研究活動に入ります。5年生では学んできたことの集大成として、自身の卒業研究に取り組みます。

その後の進路の一つとして、木更津高専でさらに2年学べる専攻科があります（外部からの受験も可能）。ここでは高専で5年間学んだことをさらに深く学ぶことができ、5年生で行った研究を引き継ぐことも可能なので、木更津高専内でも人気の進路となっています。

また、学生生活において、楽しいイベントは欠かせません。学友会執行部が季節に合わせた学生向けのイベントを定期的に行っており、夏は七夕、冬は花火大会が開催されます。体育祭では、学科対抗で熾烈な競争が行われます。さらには、祇園祭（木更津高専の学園祭）が10月末に行われ、今年は長らくできなかった屋台での食品の提供が可能に、さらに、外部の方が自由に参加できるようになります。

読者の皆さまもぜひ、ご参加ください。

（3）筆者から見た木更津高専の良いところ

私は現在、木更津高専の環境都市工学科4年生で、寮で生活しています。そんな私の主観的な高専のいいところを紹介します。

一つ目は、寮での生活です。寮での生活では、先輩と後輩が分け隔てなく仲良くなることができ、他学科との交流も盛んに行われます。私は、寮で一緒に高専生活を楽しめる仲間や、頼れる先輩と多く知り合うことができました。

二つ目は、先生方との関係性です。この学校は先生と学生の距離が近く、分からないことなどがあっても聞きやすい雰囲気があります。また、4年生は進路について悩む時期でもあります。先生方のなかには実務経験がある方もいて、進路の質問にも詳しく、的確に答えてくれる先生が多い印象です。

三つ目は、学校の設備です。先述のとおり、この学校の設備は大変整っており、珍しい実験設備があったり大きな図書館があったりと、学ぶ環境として大変恵まれていると思います。

4. おわりに

今回、インフラテクコンに参加させていただいただけだけでなく、私が執筆を手掛けさせていただいたことは大変貴重な経験となりました。この経験を胸に、今後の学生生活も頑張っていきます。

今回、私がインフラテクコンに参加したのは同じクラスの友人の誘いからでした。その友人がいなければ、私がこうして文章を書くこともなかったことを考えると、その友人には感謝の念が尽きません。チームを結成し、皆を引っ張ってくれたリーダーでもあった彼を尊敬しています。

また、多くのアドバイスやチームへの連絡をしてくださった青木優介先生、インフラテクコン実行委員会の皆さまや質問を投げかけてくださった皆さまの厚い支援のもと、我々のチームはここまで来ることができました。改めて皆さまへ深くお礼申し上げます。ありがとうございました。